

教育大綱と他の計画との関係

・教育大綱と他の計画との関係として、総合計画もあるし、教育に関する他の計画も、学校で定める方針もある。例えば、教育フォーラムでの『大綱のキーワード 100 個』を、教育大綱にそのまま載せるとなると、なかなか難しいが、毎年作成するアクションプランだったり、学校の経営方針の中に載せていくのは良いのではないかという話があるかもしれない。(市長)

基本理念

・「遊ぼう」と「学ぼう」を 1 つにして、「遊ぼう・学ぼう」と、「自分らしく生きよう」としてはどうか。主体性も含めて自分らしく生きようというのも大事なところかと思う。(中川委員)

・基本理念の『「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう』というこの書き方は、かなり検討してつくられただけのことはあって、非常に印象に残りやすい、全国的にもユニークな書き方ではないか。これは、このまま活かしていく。(飯島委員)

基本方針

・現教育大綱では、年代別に分けて、それぞれのステージでの基本方針を定めているが、これはあまり意味がないと思う。学ぶことは、分からないことが分かる喜びであり、それを人に伝える喜びである。基本理念にもあるように、学びを楽しいものにするためには、どんな方法があるのかを表すことができれば、と思う。(吉尾委員)

・前回のフォーラムのときに、前教育委員の上田先生にワークショップをしていただいたが、その中で、学び方を学ぶ、学び続けようという意欲やモチベーションを、子どもたちだけでなく、全ての人を持つようなメタラーニングシティとしての実現を、生駒市が目指すべきことを強くお話されていた。生涯学習は、0歳から亡くなるまでなので、今の基本方針の3本柱は、年齢が大きくなるようになっていく。学び続ける、成長を続けるための意欲や思いを持ち続けて、自分で能動的にアクションを起こす人を増やしていくことが教育だということであれば、今のたてつけから、少し変えていくことも、また、その根拠にもなるのかと思う。(市長)

・基本方針について、<子育て・就学前教育> <学校教育> <生涯学習> をきっちり分けずにはできないかというような意見が出されている。3本の柱を一体化する、あるいは3本の柱の中にそれぞれ焦点化した課題、例えば ICT や、人づくり等をクローズアップさせることによって、3つに関わる視点での再構成するような見せ方が重要なのではないかと考える。(飯島委員)

・子どもたちも、自分が 1 人の人として成長することを周りが認めてくれる、自分の努力を受け入れてもらえるような環境を得ることで輝くこともできるし、先生も向学心や学ぶ意欲というものが再燃してくる。先生が楽しさを伝えると、子どもたちもそれを受けて輝いていく。ライフステージは違うが、子どもも学ぶし、先生も学ぶ。相互に刺激し合い、楽しく、輝きあえるような教育が、1人1人を大切にすることの中身である。そういうことが大綱に反映されないか。(伊藤委員)

・キーワードを考えたときに主体性という言葉が頭に浮かんでいる。「あなたの人生はあなたのもので、あなたの人生をより良く生きるのは、あなた自身」である。いろいろな生き方があって、それを誰も否定されない、でも自分が幸せになるためにどうしたらいいかということを常に考えて

いく。自分の人生を考えたら、成長していくことが重要になるし、キーワードとなるように思う。
(吉尾委員)

- ・今見直してみても、主体性に関しても網羅されていると思っている。きちんと、主体的に学び、挑戦を続ける、たくましい「いこまびと」の育成ということを掲げていて、ここに書いてある内容が、第3次教育大綱にそのまま載せても、全く違和感がないと思っている。教育大綱に何を書くかということより、それをどうやっていくか。それぞれの解釈や、学び方をどう繋げていくかというところが大事かと思う。3つの柱が分かれているとは考えておらず、ポイントとしてとても分かりやすいので、より繋がりをつくるためにどう表現したらいいのかというところは工夫が必要だと思うが、やはり柱としても、しっかりしているのではないかとと思っている。(レイノルズ委員)

学校教育

多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

- ・誰一人取り残されることのない教育体制を実現することが重要になると考える。年代を超えて、子どもも大人も一緒に、同じ立場で同じ体験を共有して、誰一人取り残されないとイメージができる場ができればらすごく良い。(神澤委員)

主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心身の育成

- ・特にデジタル・シティズンシップで言えば、コロナ禍でオンラインの活用や、SNS が発達して、最近では ChatGPT 等も出てきている中で、どのように共存していけばいいのか、どのように活用していくか、子どもたちも大人もどのように向き合っていけばいいのかということは、大きな課題だと思っている。海外の世界的な課題を小、中学校の子どもたちであっても、大きな広い視点でグローバル的なことを考えていくことができたらいいかと思う。(古島委員)